

# 文学講演会



10月22日(土) 教育会館講堂にて、講師に堀井正子先生をお迎えし、「井上靖の魅力 『鬨牛』『猟銃』そして『氷壁』」という演題で文学講演会が行われました。会場には教職員や一般参加の参加者が集まりました。

## 文学研修会講師 野溝和人先生のお話



5回行われた文学読み合わせ会で取りあげた芥川賞作家と作品について年代順に解説していただきました。解説していただいた内容は、  
① 作家について②作品について③作品を叙述の具体から探る④選考委員選評からの4点  
です。また、読み合わせ会で出された会員の感想等もお話していただきました。

## 堀井正子先生 講演会の内容

作家 井上靖の魅力について、「鬨牛」「猟銃」「氷壁」の3作品を取り上げてご講演いただきました。井上靖の娘さんが父について語った話、芥川賞を受賞時の選考評価、に続き、「鬨牛」「猟銃」についての解説。「氷壁」を書くきっかけとなったエピソード。当時の登山家像にはない新しい山のロマンを描いた作品であること等をお話していただきました。また、小説を楽しむ方法として、作品に関係のある写真や地図なども手元に用意するとイメージがふくらんで別の楽しみ方ができることも教えていただきました。

## 参加者の感想

堀井先生の優しい語り引き込まれて聴いていました。「猟銃」「闘牛」を読んでみたくなりました。井上靖の作品は、あまり手に取ったことがなかったのですが、興味が持てて、とても良い機会でした。ありがとうございました。堀井先生に夏目漱石についてもお聴きしたいです。

井上靖の「氷壁」は、若い頃一気に読み上げた思い出があります。けれど、「猟銃」も「闘牛」も読んだことがなく、しかも芥川賞の選考に絡めてお話をお聴きできて衝撃的な出会いとなりました。今まで、芥川賞も直木賞も受賞作品をただ読むだけでしたが、今後、選考にも興味が沸いたので、選考理由もきちんと読みたいと思いました。軽やかな口調でお話くださった堀井先生のおかげで、本を読むことの新たな楽しみを教えてくださいました。ありがとうございました。

上高地にも穂高にもたくさんの方が集まったようですが、私もその一人になりたくりました。何かを忘れようと山へ向かっても思いが募るだけ・・・気恥ずかしくなるほど真っ直ぐですが、人の“心”って“理性”に反してそうなのかなと思いますし、井上靖が描いた“人間くささ”が伝わるなと感じます。（「氷壁」）3作品紹介していただきましたが、あらすじで一番興味がわいたのは「猟銃」です。色んな愛の形に出会いたいと思います。芥川賞を受賞した「恋愛小説」に分類されるものは、どの位あるのでしょうか？探してみます。

井上靖の写真や地図等のスライドを紹介してもらったので、より具体的にイメージすることができて、内容がわかりやすかったです。文学を読むことを押しつけることの怖さについて話していただき、自分のことを振り返ることができました。「氷壁」はまだ読んだことがないので、ぜひ読んでみたいと思いました。

